鼻水、鼻づまり、頭痛、頭重感などの症状で悩んでいませんか？

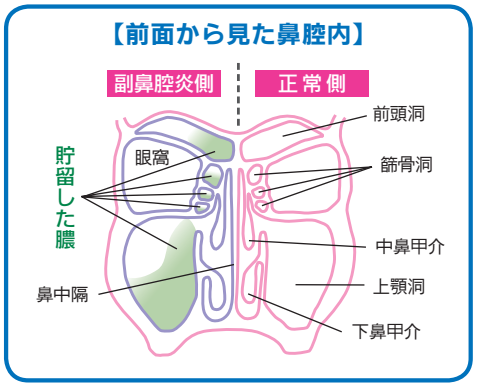
「堀病院」の平木信明先生（東手城医院院長）に聞きました

『慢性副鼻腔炎(蓄のう症)』の最新治療法について

鼻水、鼻づまり、頭痛、集中力の低下など、さまざまな症状の出る「慢性副鼻腔炎（ふくびくうえん）」。この最新治療について「堀病院」耳鼻咽喉科の平木信明先生（東手城医院院長）に聞きました。

Q 慢性副鼻腔炎はどんな病気？

副鼻腔（左図）は顔や頭の骨の中に形成された4つの空洞で、この空洞に炎症が起こるのが副鼻腔炎です。ウイルスや細菌により発生した、炎症が副鼻腔に波及すると急性副鼻腔炎になります。抗生剤の投与などにより短期間で軽快することが多いですが、長引いた場合や反復した場合は慢性副鼻腔炎（蓄のう症）になります。また、アレルギー性鼻炎や喘息（ぜんそく）の合併、鼻中隔弯曲（びわんきょく）症などの鼻腔の構造の異常も慢性副鼻腔炎の原因となります。黄色いネバネバの鼻水、鼻水が喉に落ちる、鼻づまり、頭痛・頭重感、においや味が分かりにくくなるなどの症状がひどいと不眠、イライラ感、全身倦怠感（けんたいかん）、集中力低下などを生じ、学業や仕事に影響が出ますので、耳鼻咽喉科で適切な治療を受けることをお勧めします。



Q 診断と治療法は？

まずは鼻の中をよく診察した上でレントゲン検査を行います。詳細に評価する場合には、内視鏡を用いてポリープの有無、鼻水の流れる部位、鼻腔の形態などを観察したり、副鼻腔CT検査（写真右下）で、副鼻腔の構造を細かく評価します。

慢性副鼻腔炎の治療には、薬物療法と、手術療法などがあります。薬物療法は、副鼻腔炎に特に有効とされているマクロライド系抗生剤を少量長期間投与（1～3カ月）する治療法です。

この薬物療法により粘膜が改善し完治する場合も多くありますが、改善しない場合や、鼻茸（ポリープ）ができている場合、炎症を繰り返す場合、頭痛や顔面の腫れなどのは、症状が強く出る場合などには手術が必要となります。

▲CT検査機器

Q どんな手術を行うのですか？

以前の副鼻腔炎の手術は、歯茎の上を切開し、顔面の骨をノミで削る必要がありました。しかし、最近では、内視鏡を鼻の中に挿入し、副鼻腔の炎症を改善させる内視鏡下鼻副鼻腔手術（ESS）が主流です。

この手術は、内視鏡で鼻の穴から手術を行うので顔に傷が付くこともなく、術後に顔の腫れやひどい痛みもほとんどありません。手術時間は1～2時間ぐらいで、全身麻酔で行います。入院期間は、術後約1週間程度です。また、手術後には、一定期間の内服通院治療が必要となります。

堀病院では、現在国内で最も解像度の高い4K内視鏡カメラや手術中に詳細な位置関係の把握が可能となる手術用ナビゲーションシステム（写真右）などを導入し、より安全に手術が行えるように努めています。

◀ナビゲーション画像システム

Q 手術後、再発はありませんか？

術後にポリープの再発や膿（のう）性の鼻水が出ることはありますが、外来治療で比較的簡単に治ることが多いです。残念ながら、再手術が必要となる症例もまれにあります。

術前にポリープが存在した場合や、喘息を合併した場合などは再発率が高いので、厳重な経過観察が必要です。

Q 手術は保険が効きますか？

すべての手術は保険適応で、高齢者は医療費の1～2割、その他の方は3割負担です。また高額療養費制度という医療費を減免してくれる制度もありますので、具体的な金額は手術を受ける医療機関でお尋ねください。

耳鼻咽喉科・眼科
堀病院
☎084(926)3387
福山市沖野上町3-4-13
耳鼻科HP=http://www.hori.or.jp
眼科HP=http://ganka-hori.com
堀病院 検索

平木信明先生

1999年、産業医科大学医学部卒業。同大学医学部助教。和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科。浜松労災病院耳鼻咽喉科。熊本労災病院耳鼻咽喉科を経て2011年より堀病院および、東手城医院勤務